

様

辺野古土砂投入に怒りを込めて抗議し、即時中止を求めます

2018年12月 日

全国労働組合総連合

〇〇〇

安倍政権・沖縄防衛局は、12月14日、辺野古への土砂投入を開始しました。

私たちは、9月30日投票の沖縄県知事選挙をはじめ、選挙において繰り返し示された「辺野古に新たな基地はつくらせない」とする沖縄県民の意思を乱暴に踏みにじり、工事を強行したことに對して、満身の怒りをこめて抗議します。

今回の、辺野古への土砂投入は、何重にも違法行為を重ねたものであり、到底容認できません。

沖縄県は、今年8月、埋め立て承認を撤回し、工事の法的根拠は失われました。ところが、「埋め立て承認撤回」の効力を消すために、防衛省沖縄防衛局は、行政不服審査法を悪用して私人になりすまして、国土交通大臣に、審査請求とその採決までの執行停止を申し立て、それを受けて、国土交通大臣が「埋め立て承認撤回の執行停止」を決定するという茶番劇を演じました。こうして、法的根拠のないまま、工事の再開を強行したことは、法治国家として、ありえない暴挙です。

また、沖縄県の赤土等流失防止条例に違反して赤土が混入している土砂を投入し、実施計画の変更についての知事の承認を受けないまま栈橋を利用するなど、いくつもの違法行為を積み重ねており、許されません。

さらに、軟弱地盤の改良工事には、甚大な環境破壊が予想されることに加えて、県の試算によると、工期は最低13年、建設費は当初予定の10倍の2兆5000億円にふくれあがるとされています。この工事そのものの見通しがたっていません。このような展望のない「辺野古移設」を「唯一の条件」としている限り、普天間基地撤去の目途もたちません。普天間基地については、無条件の閉鎖・撤去を行うべきです。

以上により、私たちは下記事項について強く求めます。

記

- 一．沖縄県の民意を蹂躪し、法をも無視する辺野古新基地建設工事を即時中止すること。
- 一．環境を大幅に破壊する土砂投入を即時中止し、原状回復を行うこと。
- 一．辺野古新基地建設計画を撤回し、普天間基地の無条件閉鎖・撤去を実現すること。

以上